

LEVEL

3

て か
手ぶくろを買いに



げんさく にい み なんきち
原作：新美南吉



朗読音声のダウンロード
Audio download

★よまえ読む前に Before you read

《多読の読み方》

多読とは、とてもやさしい本から楽しくたくさん読んで日本語を身につけていく方法です。

次の4つのルールを守って楽しく読みましょう。

1. やさしいレベルから読む
2. 辞書を引かないで読む
3. わからないところは、とばして読む
4. 進まなくなったら、他の本を読む

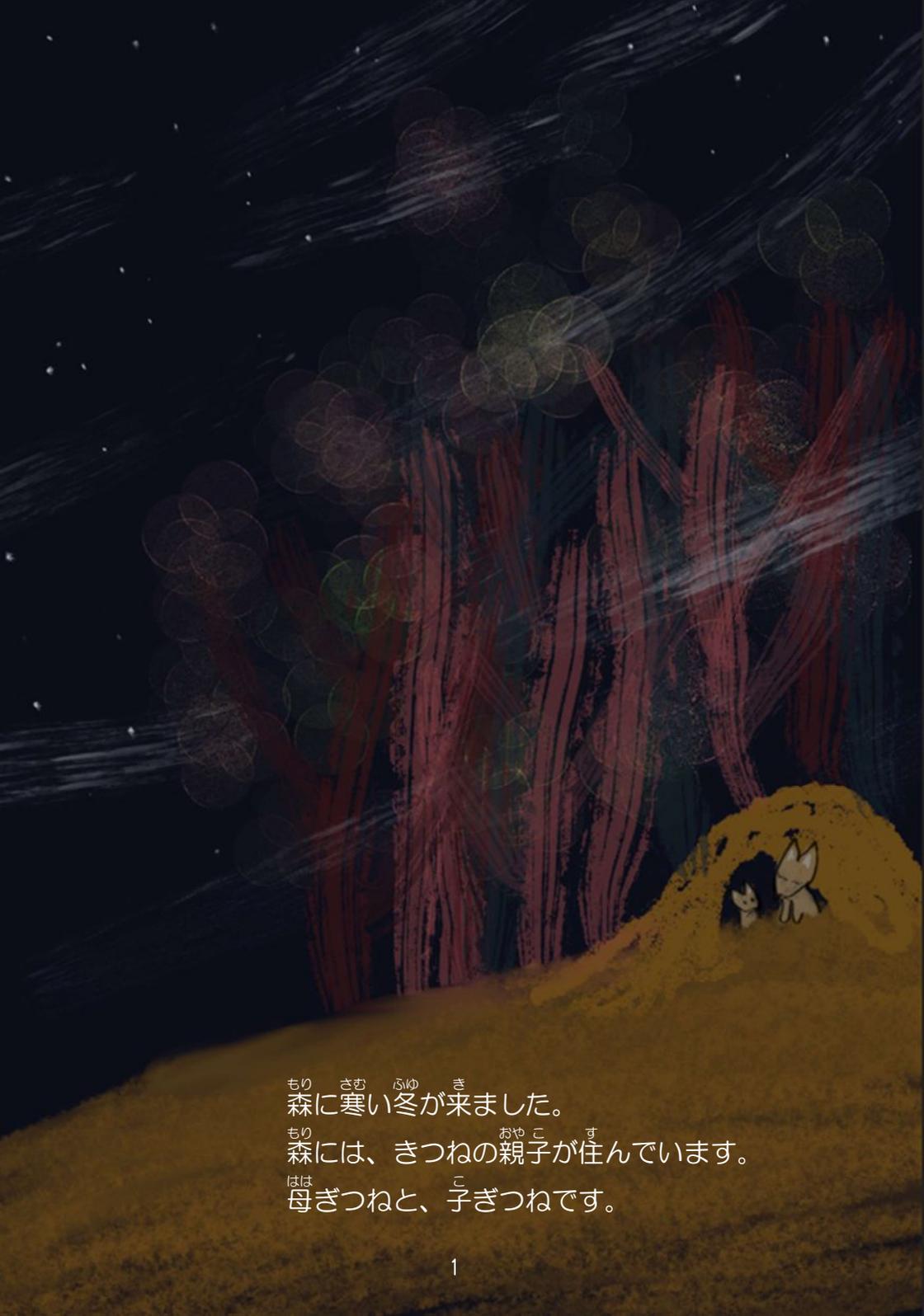


《How to do Tadoku》

Tadoku recommends that everyone should start with very easy books and enjoy a lot of them following the 'Four Golden Rules' below.

1. Start from scratch.
2. Don't use a dictionary.
3. Skip over difficult words, phrases and passages.
4. When the going gets tough, quit the book and pick up another.





もり さむ ふゆ き
森に寒い冬が来ました。

もり おや こ す
森には、きつねの親子が住んでいます。

はは こ
母ぎつねと、子ぎつねです。



ある朝、子ぎつねが外へ出ようとして、
「おかあさん、目に何かが入った！痛い痛い！」
と大きな声を出しました。

母ぎつねはびっくりして、子ぎつねの目を見ましたが、
何も入っていません。

母ぎつねが外に出てみると、外は真っ白です。

昨日の夜、雪がたくさん降ったのです。

雪を初めて見た子ぎつねは、雪が、

お日様の光でキラキラ光っているのを見て、

「目に何かが入った！」と間違えたのでしょ。



こ
子ぎつねは外へ遊びに行きました。

ゆわらかい雪の上を走ると、雪がたくさん飛んで、
ちいさい虹が出ました。

うし
後ろで「ざーっ」という
おお
大きい音がしました。



こ
子ぎつねはびっくりして
と
飛び上がりました。

「なん
何だろう？」と
おち
思っ

うし
後ろを見ると、

それは木の枝から落ちた雪でした。

「おかあさん、おててが冷たい。おててがちんちんする」
母ぎつねのところに帰った子ぎつねが言いました。
子ぎつねの手は雪で冷たくなって、赤くなっていました。
すごく痛そうです。

母ぎつねは、

「かわいそうに…。

町へ出て、この子に手ぶくろを
買ってあげよう」
と思いました。



よる
夜になりました。

おや こ もり で ある い
きつねの親子は森を出て、歩いて行きました。

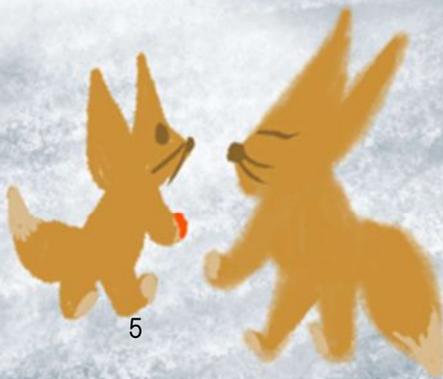
ひろ
広いところに出ました。

とお み こ
遠くを見た子ぎつねが、

「あっ、あんなひくいところにおほしさまがいる！」と言いました。

「あれはほしじゃなくて、まちあ
町の明かりなんだよ」と

はは おし
母ぎつねは教えてあげました。



その時、母ぎつねは急に思い出しました。



昔、友だちのきつねと一緒に、
人間のうちのアヒルをとろうとして、
見つかってしまったことがありました。

「こらーっ！！」と

人間はとても大きい声を出して、
追いかけてきました。

母ぎつねは、その時の人間の顔と声が
すごく怖かったのです。

はは 母ぎつねは^{あし}足を^と止めて、
「^{おも}どうしよう・・・」^{おも}と思いました。



でも、^こ子ぎつねの^{あか}赤くて
^{いた}痛^てそうな^み手を見ると、
やっぱり^て手ぶくろを^か買ってあげたい
^{おも}と思いました。

「^{ちい}小さい^こ子ぎつねが^い行けば、
^{だいじょうぶ}大丈夫かもしれない・・・」と
^{はは}母ぎつねは^{かんが}考えました。





「お前、^{まえ}て^だを出して」
母^{はは}ぎつねはそう^い言うと、
子^こぎつねの^{ひだり}左手を、
自^じ分の^{ぶん}手で^てやさしく^{さわ}触りました。
すると、子^こぎつねの^て手が
かわい^{にんげん}い人間の^て手に^か変わりました。

「わ～、^{へん}変な^て手だね」
子^こぎつねは、その^て手^みを見て^い言いました。
「これは^{にんげん}人間の^て手よ」
と母^{はは}ぎつねが^い言いました。

「^{まち}町には^{にんげん}たくさん人間の^{うち}があるから、
ぼう^えしの^{みせ}絵がある^{さが}店を探^さすんだよ。
み^みつけたら、その^{みせ}店の^{とあ}ドアを^て手で“^{とんとん}トントン”と^{たた}叩いて、
“^いこんばんは”って^い言いなさい。
すると、^{にんげん}人間が^{とあ}ドアを^{すこ}少し^あ開けるから、
その^{とあ}ドアの^{あいだ}間から^{にんげん}この^て人間の^だ手を出して、
“この^て手に^てちょうど^いいい手^いぶくろを^いください”って^い言うんだよ、
わ^わかった^ねね」

母^{はは}ぎつねは^いそう^い言って、子^こぎつねに^{かね}お^{ふた}金を^{わた}2つ^{わた}渡しました。

「絶対^{ぜったい}にきつねの手^てを出^だしてはいけないよ」

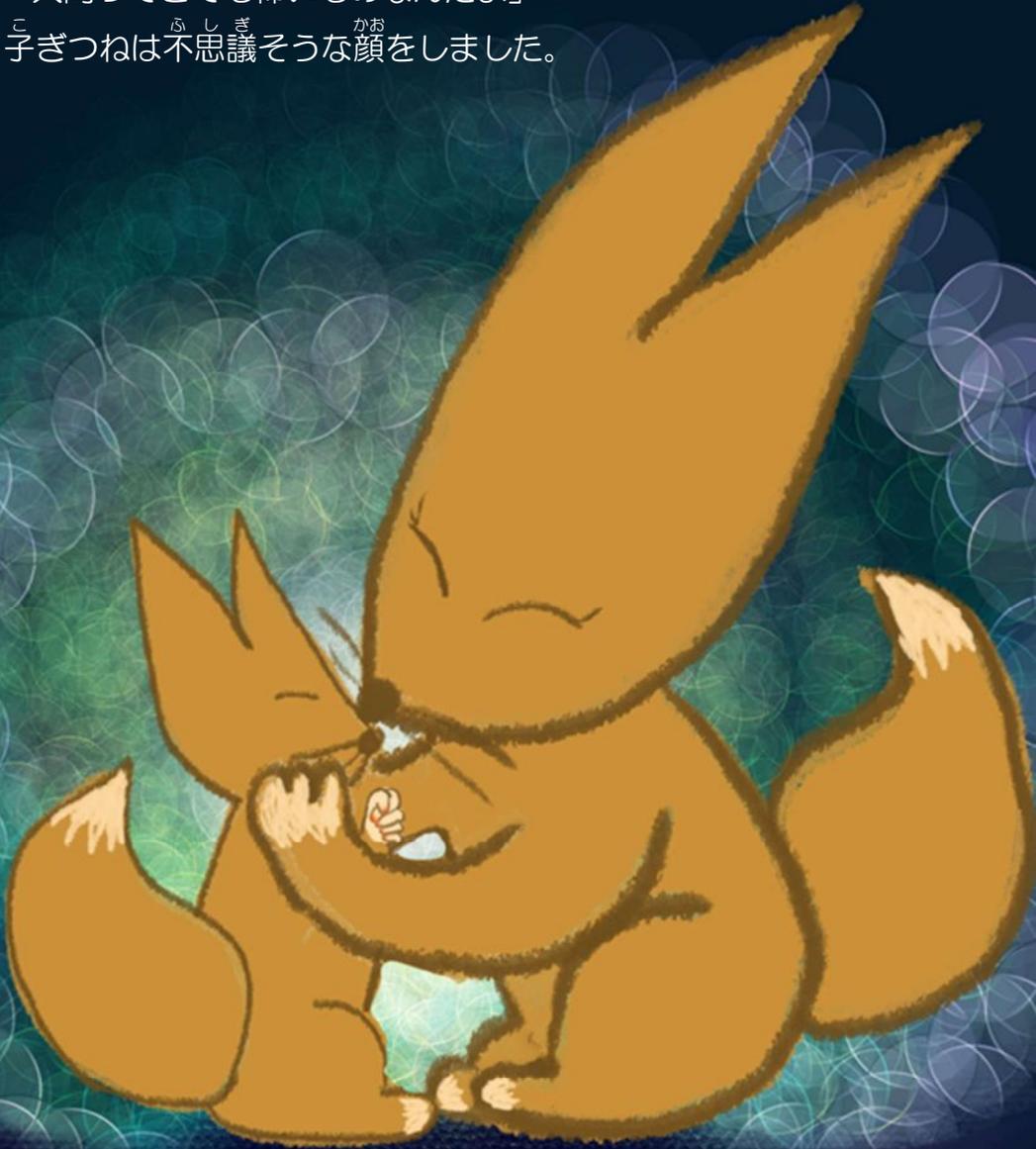
「どうして？」と子ぎつね^こは聞^ききました。

「人間^{にんげん}は、きつねには手ぶくろ^てを売^うってくれないんだよ。

きつね^みを見たら、大^{おお}きい声^{こえ}を出^だして、追^おいかけてくるんだよ。

人間^{にんげん}ってとても怖^{こわ}いものなんだよ」

子ぎつね^こは不思議^{ふしぎ}そうな顔^{かお}をしました。





こぎつねは町のほうへ歩いて行きました。

初めは1つだった明かりは、

2つになって、3つになって、

最後は10になりました。

町の明かりは、黄色や青や赤があって、

「お星さまと同じだな」

とこぎつねは思いました。

もう家の戸はみんな閉まっていて

人は誰も歩いていません。

こぎつねはぼうし屋を探しました。





やっとぼうし^や屋^みが見つかりました。
黒くて大きなぼうしの^{くろ} ^{おお} ^え ^{みせ}絵がついている店です。
こ^こぎつねは^は母^はぎつねに^{おし}教えてもらったとおり、
と^とて^てとんとんと^{たた}叩きました。

「こんばんは」

とあほそあめまえつよひか
ドアが細く開いて、目の前が強く光りました。

こ
子ぎつねはびっくりして、

きつねの^て手のほうを出してしまいました。

そしてそのまま、

「このおててにちょうどいい^て手ぶくろをください！」

と^い言いました。



ぼうし屋は手を見て、

「おや、これはきつねだな」

とすぐわかりました。そして、

「本当にお金を持っているのかな」

と思ったので、

「先にお金をください」

と言いました。

子ぎつねは、今度は人間の手を出して、

お金を渡しました。

ぼうし屋はお金を長い間、

見ていました。

本当のお金のようです。



それからぼうし屋は、小さい子どもの手ぶくろを出して、
子ぎつねに渡しました。

子ぎつねは「ありがとう」と言いました。

「ぎつねの手を見せてしまったけど、大丈夫だった。

人間は全然怖くないな」

と子ぎつねは思いました。





かえ
帰りに

ある^{いえ}家の^{まど}窓の^{した}下を^{ある}歩いていると、
こえ^き声が^き聞こえてきました。

「ねむれ ねむれ ははのむねに
ねむれ ねむれ ははのてに・・・」



こ
子ぎつねは、これは^{にんげん}人間のおかあさんの^{こえ}声だ^{おも}と思いました。

こ
子ぎつねが^ね寝る^{とき}時、^こ子ぎつねのおかあさんも、

この^{こえ}声と^{おな}同じように、^{こえ}すごく^{うた}やさしい^{うた}声で^{うた}歌を^{うた}歌ってくれるからです。

^{きゅう}急におかあさんに^あすごく^あ会いたくなって、^こ子ぎつねは^{はし}走りました。

はは しんぱい こ ま
母ぎつねは心配しながら子ぎつねを待っていました。

こ かえ く
子ぎつねが帰って来ると、

な よろこ
泣きたいぐらい喜びました。

にひき あか つき した しろ ひか ゆき うえ ある
2匹は、明るい月の下で白く光る雪の上を歩いて

もり かえ い
森へ帰って行きました。





しず　もり　なか　　こ　　い
静かな森の中のうちで、子ぎつねは言いました。

「おかあさん、にんげん　ぜんぜんこわ人間は全然怖くないよ」

「どうして？」はは母ぎつねが言いました。

「ぼく、まちが　ほんとう間違えて本当のおててを出してしまったの。

でも、ぼうし屋さんは怖くなかったよ。

こんなにあたた暖かい、いい手ぶくろをくれたもの」

「まあ！」はは母ぎつねはびっくりしました。

そして、ほんとう　にんげん「本当に人間はいいものかしら・・・」と

ちい　こえ　い小さい声で言いました。

て か 手ぶくろを買いに

はっこうび
発行日 : 2022年1月15日

げん さく
原作 : 新美 南吉

かん やく え
簡約・絵 : 池田 あきつ

きょう りよく
協力 : NPO 多言語多読



NPO多言語多読

tadoku.org



この作品はクリエイティブ・コモンズ表示-非営利-改変禁止4.0国際ライセンスの下に提供されています。

This book is licensed under CC BY-NC-ND 4.0

<https://creativecommons.org/licenses/by-nc-nd/4.0/>